



土木建設業協会
県森林建設業協会

大洲・防災林で奉仕活動

設立10周年事業の一環で

県森林土木建設業協会（石川俊幸会長）は26日、相馬市の大洲地区で奉仕活動を行った。

協会設立10周年記念事業の一環として企画。2015年6月に海岸防災林再生森づくり活動とし



て植樹を行った相馬地区

海岸防災林造成地を対象に実施した。

会員企業の役員や従業員、相双農林事務所職員ら約50人が参加。石川会長が「草刈り等の手入れを怠らず、防災林の育成促進と防災減災につなげよう」とあいさつした。約2000平方メートルの造成地で下刈りを行い、樹木周りの雑草や雑木を除去した。

下刈り作業をする参加者ら

福島民友新聞 令和5年10月4日

相馬の海岸防災林で下草刈り

県森林土木建設業協会は9月26日、相馬市の海岸防災林で下草刈りなどの奉仕作業を行った。同会設立10周年を記念した行事で、作業に携わった参加者が防災林の成長を願った。



浜通り、県北地方の会員企業から約50人が参加。同会が2015年にクロマツを植樹した約2千平方メートルの敷地で、刈り払い機や鎌などを使って下草を取り除いた。写真。

同会は森林土木事業に関わる企業163社で構成。石川俊幸会長は「今後も必要とあれば手入れを続け、立派な防災林として育てていきたい」と話した。

福島建設工業新聞 令和5年9月27日

防災林で草刈り

相馬の大洲海岸沿いで
県森林土木建設業協会



防災林の草刈りに励む参加者

いにある防災林で草刈りの奉仕作業をした。

同協会などは2015（平成27）年、東日本大震災の津波で失われた防災林にクロマツを植えた。今回は同協会の設立10周年記念事業の一環として、クロマツの成長を妨げる雑草などの除去に取り組んだ。会員企業の約50人が約2千平方メートルで作業し、生い茂った草を下草に刈り取った。石川俊幸会長は「防災林を大切に育て、減災につなげたい」と活動の意義を語った。